

令和6年第4回(11月)掛川市議会定例会
一般質問発言順序(予定)

- | | | |
|---|-----|---------|
| 1 | 6番 | 山田浩司議員 |
| 2 | 10番 | 富田まゆみ議員 |
| 3 | 5番 | 大井正議員 |
| 4 | 13番 | 寺田幸弘議員 |
| 5 | 16番 | 窪野愛子議員 |
| 6 | 9番 | 嶺岡慎悟議員 |
| 7 | 19番 | 草賀章吉議員 |

令和6年第4回(11月)掛川市議会定例会
一般質問発言順序(予定)

11/26(火) AM 6番 山田浩司議員
10番 富田まゆみ議員

PM 5番 大井正議員
13番 寺田幸弘議員
16番 窪野愛子議員

11/27(水) AM 9番 嶺岡慎悟議員
19番 草賀章吉議員

一般質問通告要旨

議席番号	6	氏名	山田浩司	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	---	----	------	---

- 1 特別な支援や医療的ケアを必要とする児童生徒の支援体制について
(答弁：市長、教育長)

児童生徒数が減少する一方、特別な支援や医療的ケアを必要とする児童生徒は年々増えており、教育現場における支援体制の充実が重要な課題となっている。令和6年3月に発表された静岡県医療的ケアガイドラインには、複雑な医療的ケアの留意点が示されており、掛川市におけるこれまでの取組と成果を振り返り、特に支援が必要な児童生徒が安心して学び、成長できる環境を整えることが必要と考え、以下を伺う。

- (1) 特別な支援を必要とする児童生徒（知的面、情緒面）の支援体制に対する現状と課題及び今後の方向性を伺う
- (2) 医療的ケアを必要とする児童生徒に対する支援体制について、今後の方向性を伺う

- 2 中東遠総合医療センター等との連携について (答弁：市長)

掛川市では、地域医療の安定と向上のため、中東遠総合医療センターが中心的な役割を担い、救急対応やリハビリテーション等市民の安心を支えている。今後は、地域医療を第一に、予防医療や健康増進の展望から、医療と観光を組み合わせた医療ツーリズムやスポーツ医療の分野での発展が期待されている。中東遠総合医療センターと連携した健康増進、さらにはスポーツアスリートの支援に向けた取組をすべきと考え、以下を伺う。

- (1) 予防医療や人間ドック等の医療サービスと、地域の観光資源を組み合わせた医療ツーリズムについて、中東遠総合医療センターや民間企業と連携して実施していく可能性について、見解を伺う
- (2) スポーツアスリートを多く輩出している掛川市であるが、多くのアスリートは市外の医療機関で体のメンテナンスをしていると聞く。本市のスポーツ医療と連携した地域活性化に向けた取組について、見解を伺う

- 3 スポーツによる地域活性化について (答弁：市長、教育長)

掛川市ではつま恋リゾート彩の郷で全国高等学校アーチェリー選抜大会が開催

され、またスノーボード世界チャンピオンである三木つばき選手や、ブラインドテニス世界選手権準優勝の塩沢晴文選手等、国を代表するスポーツ選手が大勢いる。第2次掛川市総合計画【ポストコロナ編】は、スポーツへの参加を拡大し、トップアスリートや主要なスポーツイベントを資産として活用することの重要性を強調しており、若手アスリートの育成も期待されている。一方、地域部活の導入により、本市の生徒の興味関心や能力に沿ったスポーツや文化活動を選択できるようになるメリットは理解できるが、生徒の運動能力の低下が心配される声を多方面から聞く。これらを踏まえ、本市を魅力的なスポーツ都市として発展させていくことが今後の重要な課題と考え、スポーツによる地域活性化に向けた取組について、以下を伺う。

- (1) アスリートを市で支援し、地元でのキャンプや育成プログラムを設置し、若手アスリートの育成を進めていくべきと考えるが、見解を伺う
- (2) 生徒の運動能力の低下が心配される声を多方面から聞く中、子供たちの運動能力の向上にどのように取り組んでいくのか、見解を伺う
- (3) 掛川市を「アーチェリーの聖地」として全国に発信し、地域活性化につなげていくべきと考えるが、見解を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	10	氏名	富田まゆみ	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	----	----	-------	---

1 次期掛川市総合計画の策定について

(答弁：市長)

現在の第2次掛川市総合計画は、中間見直し後すぐにポストコロナ編として再改定され、令和7年度が期間満了となる。未来に向けてチャレンジできるまち掛川の戦略方針のもと、7つの戦略を軸として推進してきたが、現計画の達成度合いや、「希望が見えるまち・誰もが住みたくなるまち掛川」の将来像は、どこまで到達したか。現計画をどのように総括し、次期総合計画策定に向けて取り組んでいるのか、以下を伺う。

- (1) 市長は副市長時代を含め6年間、第2次掛川市総合計画のもと市政運営に携わってきた。その総括として、目標達成状況と課題を伺う
- (2) 第2次掛川市総合計画の反省を踏まえ、次期総合計画の策定において根底に据えるべき事項や重点的に取り組むべき事項について、伺う
- (3) 市民、企業、団体、そして市職員の全てが一丸となり同じ方向に進むためには、2030年あるいは2050年掛川市ビジョンとして、実現内容が明確で分かりやすいビジョンを策定する必要があると考えるが、見解を伺う
- (4) 基本計画あるいは実施計画の策定にあたっては、未来志向で柔軟な発想を持ち、これから市政を担う若手職員によるプロジェクトチームが素案作りを行うなど、次世代型のまちづくりにモデルチェンジするような工夫も必要と考えるが、見解を伺う
- (5) 第3次掛川市総合計画の策定状況を伺う
- (6) 総合計画の進行管理は、行政評価によるPDCAサイクルが基本である。それを補完するOODAループの思考を取り入れた経営手法も有効と考えるが、見解を伺う
- (7) 総合計画は、市職員にはまちづくりの基本に立ち返るとき、市民には、自分の住むまちを思い、まちづくりについて考えるきっかけとなることが望ましいと考え、誰が見ても、分かりやすい構成に仕立てることが重要と考えるが、いかがか
- (8) 子供の頃から、自分自身がいろいろな場面でまちづくりに関わっていることを知り、自分たちのまちの未来について考え愛着を持てるようにするため、子供向けの総合計画概要書を作成することも大切であると考え、見解を伺う

※OODAループとは、Observe（観察）、Orient（状況判断）、Decide（意思決定）、Act（実行）の頭文字をとったもの。集めたデータや分析が最適な意思決定に必要であり、例えば、情報が

足りなければ観察し直すなど、時代の変化に対して柔軟かつ迅速な対応が可能な経営手法のこと。

2 次期掛川市総合計画を具体化するための財政運営について (答弁：市長)

今後の市における財政運営は、物価上昇、少子多死社会、扶助費の増加、災害の頻発と大規模化、学校再編、廃棄物処理施設整備などによる、さらなる歳出の増大が予想される。そうした中、市民生活の質を担保しつつ、将来を担っていく子供、若者に負担をかけない施策が求められる。令和8年度からの新しい総合計画を具体化するための財政運営について、以下のとおり伺う。

- (1) 令和7年度当初予算編成に係る予算要求は、令和6年度比10%減を上限とする事業があると聞いている。現状における財政上の課題について伺う
- (2) 歳出削減のための事業仕分けや事務事業再考の実施状況について伺う
- (3) 市の強みや弱みを整理しデータを分析した上でターゲットを絞る、というマーケティングに基づいた事業の立案が必要と考えるが、見解を伺う
- (4) ふるさと納税や企業版ふるさと納税など、短期的な収入増を積極的に推進する必要があると考えるが、具体的な推進策を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	5	氏名	大井正	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	---	----	-----	---

1 安心して暮らせる都市基盤の整備について (答弁：市長)

令和7年度の行政経営方針における「安心して暮らせる都市基盤の整備」の具体化として、集中豪雨や台風など激甚化する気象災害や、迫りくる地震災害に備える防災対策、被災時における迅速、的確な支援のための体制整備等が必要と考える。このための諸計画について具体的に伺う。

- (1) 「掛川市地域防災計画地震対策編」における避難路の整備について、拡幅改良を指定された市道11路線の進捗状況について伺う
- (2) 市道原谷本通り線は土砂災害警戒区域内にある幅員の狭い市道であるが、令和7年4月からの原谷、原田小学校の統合、その後の小中一貫校建設後はメインの通学路になることに鑑み、道路拡幅や歩車道分離、ガードレールや街路灯の設置といった道路整備を迅速に行うべきと考えるが、見解を伺う
- (3) 「掛川市国土強靱化地域計画」によれば、県から指定を受けたふじのくにフロンティア推進区域は、防災拠点として位置付けがされることになっている。大坂・土方工業用地を例に詳細を伺う
- (4) 「掛川市立地適正化計画改定(案)」によれば、市内逆川沿線は家屋倒壊等氾濫想定区域とされているが、居住誘導区域にも指定され、この区域内に539戸の家屋が存在する。一方、「掛川市国土強靱化地域計画」でも、この地域の総合治水対策の必要性は記載されているが、どのような取組がされているか伺う

2 被災しても力強く立ち直れる意識と体制を整えるために (答弁：市長)

近年の大きな災害における死者は、多くの場合倒壊家屋の下敷きや崩土に巻き込まれるといった身体への直接的な打撃よりも、避難先での発病や衰弱によるものが多い。避難が必要な災害発生時には、ちゅうちょなく自助、互助の初動がとられ、公的に開設される避難所へとつなぐ必要があると考え、以下伺う。

- (1) 被災直後の地域の互助体制や避難計画を事前に構築しておくため、日常的に地域へ入りサポートを行う専門部署を設置すべきと考えるが、見解を伺う
- (2) 全国の避難所から、明るく清潔でプライバシーが守られる仮設トイレを望む声が上がっている。被災に備えた方針の策定と予算化や各種防災計画への具体的記載、整備の促進をすべきと考えるが、見解を伺う
- (3) 被災時に外部から駆けつけてくれるボランティアの受入れに万全を期すこ

とが、早期復興や被災者のメンタルケアにつながると考える。取組状況について伺う

3 原子力災害の防止のために

(答弁：市長)

東日本大震災における福島原発事故に見られるとおり、原子力災害は人的被害と同時に長期にわたる環境被害を発生させ、地域を丸ごと消滅させる危険性がある。一方、自然災害と異なり、原発をなくせば原因そのものが消滅し、あらゆる防災対策が不用となる。この点に焦点を当てた原発対応を求め、以下について伺う。

- (1) 従来、市長からは原発再稼働に対する姿勢は伺ってきたが、脱原発、廃炉推進の方針を持ってないか見解を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	13	氏名	寺田幸弘	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	----	----	------	---

1 公共施設の再配置計画（更新素案）について （答弁：市長）

令和6年5月17日の全員協議会で示された公共施設の再配置計画（更新素案）は、今後47年間で公共建造物の延床面積に対する縮減設定が当初の目標どおり25%として検討が行われている。公共施設の在り方については、地域固有の特性やニーズを把握した上で再配置計画（更新素案）に反映していくとしている。令和6年度は、市内9中学校区での説明会や、行財政改革審議会が行われていることも踏まえ、以下について伺う。

- (1) 市内9中学校区での説明会で出た意見のなかで、今後検討すべき事項があったか伺う
- (2) 説明会后、公共施設の再配置計画（更新素案）に変更はないか伺う
- (3) 更新素案の中で、検討時期が再配置方針公表時にはⅡ期、Ⅲ期であった施設がⅠ期に変更となった施設について検討状況を伺う
- (4) 更新素案の中で、検討時期が再配置方針公表時にはⅠ期であった施設がⅡ期、Ⅲ期に繰り下がった施設の長寿命化について考えを伺う
- (5) 掛川市大東総合運動場内のプールは海岸防潮堤建設により取り壊された。大須賀B&G海洋センタープールも老朽化している。南部地域に新たなプール建設の可能性について伺う
- (6) 第4回行財政改革審議会配布資料で、ガイドラインに基づく跡地利活用の7施設の状況が示されているが審議会での反応はいかがであったか伺う
- (7) 上記7施設の中で、旧中幼稚園と旧おだかちょうのぞみ保育園は地域活動の場として無償貸付されたが、今後も、維持管理費は地域負担となるのか伺う

2 公園の維持管理の在り方について （答弁：市長）

公園は憩いの場、イベントや集いの場、子供たちの遊び場として大切な施設である。掛川市は小規模な街区公園、近隣公園、地区公園、22世紀の丘公園のような大規模公園など、108か所を都市公園として管理しているが、維持管理の在り方や今後の整備計画について伺う。

- (1) 公園の樹木剪定や芝刈りなどの整備業務について、どのように業務委託を行っているか伺う
- (2) 所管の公園で自治区に公園管理を依頼している公園はあるか伺う
- (3) 公園内に設置されている遊具等の安全点検は、事故防止のため大変重要と考

えるが、どのように行っているか伺う

- (4) 現在、防災機能を持った公園として整備が計画されている、大東区域のコミュニティ公園（ピア公園）について具体的な構想を伺う
- (5) 都市建設部の所管する公園以外に、ため池公園や農村公園など、他の部署が所管する公園は、どのように維持管理がされているのか伺う

一 般 質 問 通 告 要 旨

議席番号	16	氏名	窪 野 愛 子	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	----	----	---------	---

1 自然災害から市民の命を守る防災対策について (答弁：市長)

地球沸騰化時代の到来とも言われる今日、地球温暖化の影響による気候変動では、毎年、全国の様々な地域で線状降水帯が頻発し、激甚災害に指定されるような豪雨災害や土砂災害が発生している。本市においても決して例外ではない。想定する降雨量を超えた場合には、県や市の管理河川の流域住民は絶えず不安を感じている。ハード対策、ソフト対策ともに重要と考え、以下を伺う。

- (1) 令和3年4月から風水害による死亡者数ゼロを目指し、「掛川市風水害・地震・津波対策整備寄附金」を募っているが、風水害に対する寄附金の総額と用途を伺う
- (2) 簡易ベッドやワンタッチパーティション等の防災資機材の備蓄保管所の整備が課題となっているが、今後の方策を伺う
- (3) 年度末に1回開催している防災会議の在り方について、活性化を図るべきと考えるが、見解を伺う

2 学校再編計画について (答弁：市長、教育長)

令和5年8月に掛川市学校再編計画が策定され、令和5年度から原野谷中学校区小中一貫校基本構想・基本計画の策定が進められている。また令和6年度には城東中学校区でも検討委員会が組織され、話し合いが進められている。今後、学校再編計画に基づき順次、小中一貫校の整備が進められていくことから、以下を伺う。

- (1) 再編計画第1期となっている東中学校区の今後のスケジュールを伺う
- (2) 学校再編に伴い児童生徒が増大する東中学校区は2分割し、駅南に小中一貫校を建設することだが、建設予定地等を含め具体的な構想を伺う
- (3) 再編計画第2期となっている栄川中学校区の方向性を伺う
- (4) 令和7年度から複式学級が発生する日坂小学校への対応について伺う
- (5) 東山口小学校と日坂小学校の統合、再編に向けた今後のスケジュールを伺う

一般質問通告要旨

議席番号	9	氏名	嶺岡 慎悟	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	---	----	-------	---

1 城東学園小中一貫校について (答弁：市長、教育長)

城東学園小中一貫校の建設地について、整備検討委員会としては東京女子医科大学跡地に決定した。今後、地域説明会等の意見を踏まえ、市として建設地を決定することとなる。そこで、以下の点について伺う。

- (1) 城東学園小中一貫校の現時点でのスケジュールを伺う
- (2) 城東学園小中一貫校の建設地について、考えを伺う
- (3) 建設地を東京女子医科大学跡地とした場合、面積が足りないことが想定されるが、私有地を買収する考えがあるか伺う
- (4) 建設地を東京女子医科大学跡地とした場合、県道の信号機設置や周辺の歩道設置、地区境の登下校ルートの確保等、登下校の安全確保のための課題が多い。建設地が決定次第、県への要望等至急進めていく必要があると考えるが、見解を伺う
- (5) スクールバスの導入について、考えを伺う
- (6) 小中一貫校の複合化について、考えを伺う
- (7) 吉岡彌生記念館と大東北公民館の今後の方向性について、市の考えを伺う
- (8) 小中一貫校建設後の放課後児童クラブについて、考えを伺う
- (9) 小学校及び中学校跡地について、市として事業投資をして活用する考えがあるか伺う

2 市職員の副業、兼業の積極的推進について (答弁：市長)

公務員の副業、兼業（以下副業とする）は原則禁止だが、任命権者の許可があれば認められている。近年の多様な働き方へのニーズの高まりや人口減少に伴う人材不足等を背景に副業が推進され、先進自治体では副業ガイドライン等を作成し、社会貢献事業や地域課題解決事業に積極的に自治体職員の副業を促進している。そこで、以下の点について伺う。

- (1) 耕作放棄地や空き家等の地域課題を解決する事業を、市職員が副業として行うことを推進できないか伺う
- (2) 商工団体の各種事業や市民活動グループに活動メンバーとして、市職員が参画することを推進できないか伺う
- (3) 市職員による地域クラブの設立を積極的に推進できないか伺う

3 おせっかい婚活サポーター制度について

(答弁：市長)

令和6年度の掛川市の出生数は700人を下回ることが予測され、少子化は危機的状況である。その大きな要因として結婚数の減少があげられ、掛川市としても縁結びプロジェクトとして、おせっかい婚活サポーター制度に取り組んでいる。そこで、以下の点について伺う

- (1) おせっかい婚活サポーター制度について、その成果と課題を伺う
- (2) 掛川市社会福祉協議会の結婚相談が令和7年2月で終了するが、その重要性は高まっているため、おせっかい婚活サポーター制度の今後の展望を伺う
- (3) おせっかい婚活サポーターは、現在、完全無報酬のボランティアであるが、持続可能な制度とするために交通費や必要経費等の支給ができないか伺う

一般質問通告要旨

議席番号	19	氏名	草賀章吉	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	----	----	------	---

1 掛川市の10年後の未来について

(答弁：市長)

人口減少により、自治会役員、農業従事者、教員、運転手、医師、介護者、職人、公務員などあらゆる分野で危機的状況が来るという予測がある。市民は、今後我がまち掛川市はどのようなのだろうか、と不安を覚えている。市長が10年後の未来像を語ることは、「希望が見えるまち」の第一歩と考え、以下市長に伺う。

- (1) 衆議院選挙が終わりました。市の政策にも関わってくると思うが、この結果をどのように受けとめているのか伺う
- (2) 与野党が拮抗した状況になったが、地方自治体にとってはどのような変化があると考えるか伺う
- (3) 人口減少が進み、持続可能な社会を目指すことに様々な危機が見えてきた。掛川市における最大の危機は何か、また対策について伺う
- (4) 市長が考える掛川市の10年後の未来について伺う
- (5) ある学者は、人口減少は止まらないため「地域」を戦略的に縮め、地方自治体の単位で物事を捉えず、人口集約によって各地に30万人規模の「生活圏」を構築することが重要なポイントとなると提言しているが、感想と見解を伺う

2 河川に係る課題について

(答弁：市長)

原田地区、原谷地区の地区集会では、近年の集中豪雨への不安から、河川に関する話題や要望が多くあった。そこで河川や豪雨への課題について伺う。

- (1) 川は山間部の源流の沢に始まり、上流、中流、下流、河口、海へと流れて行く。それぞれの場所により、課題と対策は違うと思うがどのような認識かを伺う
- (2) 原田地区では、原野谷川防災ダムの建設以降、河床が下がっている。問題ではないかとの意見があったが、どのような認識かを伺う
- (3) 上流域での河床が下がる現象は、狭く急な川では、護岸の崩落や倒木が多く発生し、大きな山崩れの要因にもなる。治山対策のためにも、堰堤の事業をより多く実施すべきと思うが、見解を伺う

3 大尾山顕光寺について

(答弁：市長)

掛川市の北東にそびえる大尾山の高さは、八高山に次ぐ671mで栗ヶ岳や小笠山同様に市民に親しまれている。

開基は、807年智願上人（安里山長福寺二代）、真言宗醍醐派で本尊は千手観音を祭り、古くは、山伏の修験道場として遠州八坊の1つに数えられた。また、古文書には江戸時代は掛川藩の御祈祷所であったとの記載もある。

数年前までは、市指定の保存樹木のカイドウや昭和33年に県指定の天然記念物となった樹齢1200年、樹高30m、目通り7m、枝張10mの鳥居スギは来訪者を喜ばせていた。しかし、この鳥居スギは平成30年の台風で倒壊し、現在は切り株のみが残る。この倒木が観音堂を直撃し、修復不可能なほどの被害を受け現在に至っている。市としてどのように受け止めるか伺う。

- (1) 大尾山は掛川市の観光資源の1つと考えるが、どのように受け止めているか伺う
- (2) 山頂の駐車場には十数年前に設置したトイレがあるが、管理はどのようになっているか伺う
- (3) 所有者は、いずれ修復を考えているようであるが、市として、ふるさと納税やクラウドファンディングなど利用した手法を活用する支援ができないか伺う